

平成27年

ミニレター

教育センター



7月号

広島市教育センター

◆1ページ

- ・研修の様子 (平和教育研修)
- ・学校紹介 (大芝小学校)
- ・研究会案内

◆2ページ 教育最前線

- ・Ⅰ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業『算数編』
- ・Ⅱ 教育委員会発！情報FLASH 言語・数理運用科の単元構成

夏休みが始まりました。研究と修養の季節でもあります。教育センターにも、1年間で最も多くの先生方が研修に来られる期間です。

さて、上の写真は6月22日(月)実施の「平和教育研修」の様子です。今年度は「平和教育プログラム実践の充実」をテーマに、川内小学校で公開授業・協議会を行いました。子ども達が主体的に学ぶために、場面設定の仕方や教材の提示の仕方、子どもの意見を引き出したり、つなげたりするための教師の働きかけの仕方など、学びの多い研修となりました。今年度は被爆70周年を迎えます。子どもたちの、世界恒久平和の実現に貢献できる意欲や態度の育成を目指し、平和教育の一層の充実を図りましょう。

【受講された先生方の声】

- ・戦争を知らない子どもたちに対して、どう自分ごととして考えさせるのか、補助発問の仕方などが勉強になりました。(小学校教諭)
- ・平和学習では、人が人を思うという当たり前のことこそが大切であると、改めて感じました。(中学校教諭)
- ・戦争を昔のこととしてとらえるのではなく、「今」の自分達につながるきっかけとなるよう考えさせたいと思いました。(高等学校教諭)

学校紹介

大芝小学校

意識するポイントを明確にした歌唱指導

OH!芝太郎のひみつ道具

大芝小学校では、月1回の音楽朝会と、週1回の昼の帯タイムを利用して、歌唱指導を行っています。今年度からめあてに迫るため、音楽朝会に歌声忍者「OH!芝太郎」が登場し、ふるしきから「ひみつ道具」を出して、意識するポイントを伝えています。目に見える道具を示すことで、全校で同じ目標を意識して歌うことが出来ます。また、各担任も指導するポイントについて、共通理解をもって指導にあたることが出来ます。

これまでのひみつ道具

- 4月「いらっしやいマッスル」
- 5月「芝光線」
- 6月「にゃんちゅうのツボ」
- 7月「さしすせソース」

※4月の「いらっしやいマッスル」とは、デパートの店員さんが「いらっしやいませ」と挨拶するときの立ち方(かかとを近づけるのがポイント)で立ち、おしりとお腹の筋肉(マッスル)を意識してキュッと引き締め、頬を上げると、明るい歌声が響くという不思議な「ひみつ道具」です。

いらっしやいマッスルを芝太郎が出すと、子どもの足元に変化が現れ、歌声も響きはじめます。



案内

広島市で行われる教育研究大会

第2回中国中学校 道徳教育研究大会

10月16日(金)
公開授業等 東原中学校

＜大会テーマ＞
豊かな心をもち共に生きようとする力をはぐむ
道徳教育

第53回全国小学校社会 科研究協議会研究大会

10月29日(木)
開会行事・レセプション
10月30日(金)
公開授業
会場：白鳥小学校・千田小学校・古田台小学校

大会テーマ
社会を見つめ、未来を問い
続ける社会科教育の創造

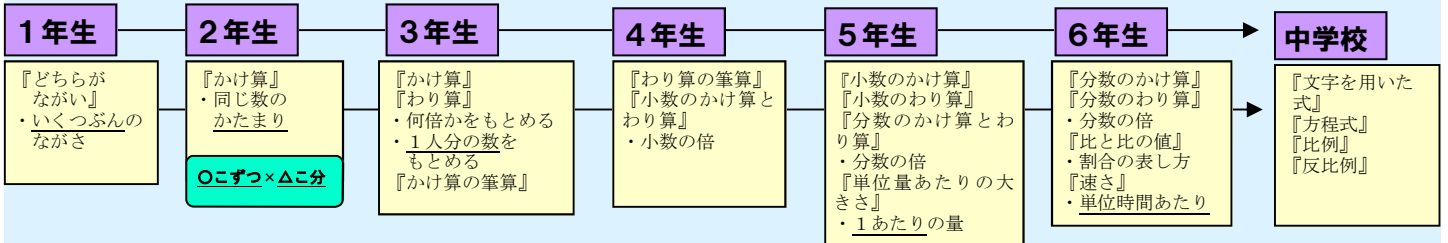
教育最前線Ⅰ シリーズ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業③

指導内容の**系統性**を意識し、**概念形成**を図ることで、**主体的・協働的な学びの基礎**をつくる。

算数編

第3回は、算数です。算数科は指導内容の系統性が重視される学習です。今、学んでいる単元概念形成が今後どのような学習につながっていくのか、という見通しをもった指導が大切です。概念の獲得の際には、問いの工夫をすることにより、子どもの思考の切り口が広がり、思考を深め、確実な概念形成を促すことにつながります。ここでは主体的・協働的な学習をねらった問いの設定例を紹介します。

例 「1つ分（基準量）」の系統性



【問い1】 しきを考えましょう
 ① えんぴつを1人に3本ずつ、4人にくばります。えんぴつは全部で何本ありますか。
 $3 \times 4 = 12$
 ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ (かけ算だからかけた) (出てきた順にかけた)

「基準量」の形成概念を図る問いの工夫
理由

【問い2】 どちらの問いの図でしょうか
 ① えんぴつを1人に3本ずつ、4人にくばります。えんぴつは全部で何本ありますか。
 ② えんぴつを3人に4本ずつくばります。えんぴつは全部で何本ありますか。

【問い1】と同じ形式の問題を繰り返していると、「 3×4 」と「 4×3 」の違いが十分理解できていなくても、これまでの学習の流れで答えられる場合があります。
【問い2】に取り組ませることで、これまでの問いとは違う切り口で思考させ、「〇こずつ」「△こ分」という既習事項を活用して、確実な概念を形成することができます。
 その際には、ことばや式、図などを使って、お互いが説明をし合う活動を設定することが有効です。

学習活動のイメージ
 ①は3本ずつ4人分だから 3×4 だね。
 ②は3人に4本ずつって4本ずつ3人分のことから 4×3 じゃないかな
 ①は3本ずつのかたまりが4つだから…
 ②は4本ずつのかたまりが3つだから…
 は②だ！
 問題の図

教育最前線Ⅱ 教育委員会発! 情報FLASH

中学校第1学年

言語・数理運用科の単元構成 「わたしたちの町の『ゆるキャラ』を作ろう」

言語・数理運用科の第2回は、単元構成についての紹介です。今回は、新単元として追加した中から、中学校第1学年「わたしたちの町の『ゆるキャラ』を作ろう」を例に、第一次～第三次の単元構成に込められた意図を考えていきます。

第三次での学んだことを実生活に生かす場面設定が、生徒にとって学ぶ必然性や意欲を育む仕掛けになっています。言語・数理運用科の単元構成を再確認するとともに、各教科の単元構成を構想される際も参考にしてみてください。

①「情報の取り出し」
二次で思考するために必ず身に付けておかなければならない「**基礎**」を磨く。

<第一次>
人気のある「ゆるキャラ」に共通してみられるのは、どんな特徴でしょうか。

②「思考・判断」
一次で身に付けた基礎的なスキルを活用し、課題について「**思考**」する場を設定する。

<第二次>
次の「ゆるキャラ」はどこがご当地なのでしょう。「ゆるキャラ」を分析して、そのご当地を考えましょう。

③「表現」
思考したことが実生活においてどのように「**実践**」されていくかを想定した場を設定する。

<第三次>
資料5や自分で集めた資料を参考にし、わたしたちの町の「ゆるキャラ」のデザインを考えましょう。